君は愛されるため生まれた

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」

（聖書:イザヤ書43章4節）

子どもは親に支配される所有物ではなく、価値ある人間として神さまによって造られました。神さまは親に子どもを贈り物とし、育てる特権を与えられました。子どもは「授かりもの」であり、「預かりもの」ですから、神さまにお返ししなくてはなりません。ですから、それぞれの子どもたちの個性をよく知って、自分の子どものユニークな価値を認識した子育てが求められています。子どもは一人ひとりが特別なのです。

生まれたときから両腕がなく、左脚も右脚の半分くらいの長さのハンディを持つレーナ・マリアさんは、屈託のない笑顔で次のように話しています。「自分が障がい者だと思ったり、ハンディキャップに対して腹立たしく感じたり、悩んだりしたことはありません。神さまは、きっと何か特別なご計画があって、わたしをこのように造られたのだと思います。」

神さまは決して失敗しない方です。人は、それぞれにふさわしくユニークな目的・計画・意図を持つものとしてデザインされているのです。神さまからありのままで愛されているのです。それをわが子に伝えることはとても大切です。普段からいつも「あなたを大切に思っている」と語りかけ、ギュッと抱きしめてあげるのです。そう思えないときにも、そう思えないからこそ、神さまに助けと愛を頂くのです。それが父と母の祈りです。

「誰でもいい、人を殺して自分も死にたい」と言う人たちが、次々と恐ろしい事件を起こしています。親としてわが子が無事に育ち、どのような人になるのか心配です。けれども、自分の存在を喜んでくれる人たちに囲まれ、そのうえ神さまの愛を知っていれば、自分自身も他の人も大切にできる人として育つのではないでしょうか。聖書は、このような考え方、生き方を教え、そのように生きる力を与えてくれるのです。

聖書の子育てを学ぶために、お父さん、お母さん、教会に出かけてみませんか。

聖書の「子育て支援」（日本同盟基督教団発行 カリスvol.5）より引用